

▶▶長尺塩ビシート

新築工事の施工中の配慮で防げる不具合について、今回は主に共用廊下、バルコニー床面へ採用の多い防滑性ビニル床シート（長尺塩ビシート）に生じる不具合に触れる。

長尺塩ビシートではシート端部からのめくれや剥がれが代表的な不具合として挙げられる。シート接合部の溶接部の破断も同様だ。主な要因は、長尺塩ビシートの経年劣化や、外気温の変化による材料収縮と考えられるが、施工方法によって不具合を最小限に抑えられる可能性がある。

写真1は、長尺塩ビシート端

マンション
大規模修繕

NPOリニューアル技術開発協会

新築工事への
フイードバック



写真1

部にめくれが発生している状況である。この場合は、長尺塩ビシートにシール処理が行われておらず、長尺塩ビシート端部から雨水などの侵入により、接着剤の劣化が促進してしまったほか、長尺塩ビシート自体の材料収縮がめくれの原因と考えられる。

現在でも新築現場では、長尺塩ビシート端部にシールを施工

端末、ジョイント部を適切処理

めくれ防ぎ美観・機能維持

されないケースが多く、そうした不具合につながっている。

写真2は長尺塩ビシート同士の接合部の溶接個所が破断している状況である。これは、主に長尺塩ビシートの材料収縮に起因



写真2

するものと推測できる。ただし、写真のように溶接部の大幅な破断については、以下の点に注意しながら施工してほしい。

1. 溶接時、シート同士に隙間を開けない

シート同士を接合する際、あらかじめ溶接棒の太さ分の隙間を開けて施工する場合がある。これでは溶接面積が少なくなり十分な溶接強度が得られない。溶接時にはシート同士を突き合

わせ、溶接用の溝を設け施工することで溶接強度の向上が期待できる。

2. 溶接温度と溶接速度に注意する

溶接部の強度は、溶接温度と溶接速度に大きく左右される。溶接温度が高すぎる場合、シート表面に焦付きが発生する。一方で、溶接温度が低い場合は溶接強度が得られない。また、溶接速度が遅すぎると、シート表面に焦付きが発生しやすく、逆に溶接速度が速すぎると溶接強度が得られない。焦付きを恐れ、溶接を行うと溶接強度が得られない結果となる。

作業中は溶接個所にビードができていないか確認し、温度と速

度が適切であることを注意する。



溶接部の施工状況

長尺塩ビシートは、美観向上のために採用されていることが多いが、防滑性や衝撃吸収性など居住者に配慮した機能も持っている。美観を保つためにも端末やジョイント部の処理を適切に行うことが重要であるが、材料の持つ機能を適切な期間、維持できるような配慮をすることは、施工者の責務である。